

令和7年9月定例会 一般質問（令和7年9月29日⑦）

魚森 ゴータロー 議員



大阪維新の会大阪府議会議員団の魚森ゴータローです。通告に従い順次質問させていただきます。

1. 災害時における一時滞在施設の確保状況

まず、災害時における一時滞在施設の確保状況について伺います。

今後30年以内に80%程度の確率で発生している南海トラフ地震が発生した場合、私の地元にある大阪の東の玄関口である京橋駅など、大阪市内の各ターミナル駅については、乗降客も大変多く、帰宅困難者が発生すると見込まれています。

このような大規模災害に備え、帰宅困難者対策としての一時滞在施設の確保は重要度を増しており、私は、令和3年5月の一般質問から毎年議場において取り上げてきました。

令和5年11月の一般質問では、大阪市内における一時滞在施設は53施設との事でしたが、現在の一時滞在施設の確保状況はどのようになっているのか伺います。また、今後、大阪市内における一時滞在施設の確保に向けた、府としての取り組みについても併せて危機管理監に伺います。

【奥平危機管理監】

- 帰宅困難者対策としての一時滞在施設の確保については、市町村の責務であり、大阪市内においては、ターミナル駅を中心に、一時滞在施設の確保に向けて取組が進められてきた。

- その結果、大阪市内における一時滞在施設の確保状況としては、新たにグラングリーン大阪南街区などが追加され、本年8月末時点で78施設となっている。
- 府としては、市町村の要請に応じて、府立・府有施設等への協力を求めるとともに、宿泊施設、百貨店等の業界団体への働きかけを行っており、先日開設した森之宮キャンパスについて、京橋エリアの一時滞在施設として協力いただけるよう、現在、大阪公立大学と調整をしているところ。
- 今後とも、帰宅困難者の安全安心の確保に向け、大阪市と連携を図りながら、一時滞在施設の確保に取り組んでいく。

【要望】

南海トラフ地震などの発生がいつ起きてもおかしくない状況であり、ひとたび災害が発生すれば、大阪市内において多くの帰宅困難者が見込まれるため早急な対応が求められます。吉村知事も大規模災害などの際、首都中枢機能を代替できる体制の整備が必要とおっしゃっています。

一時滞在施設の確保は、市町村の役割であることは十分に理解していますが、新しく就任された、奥平危機管理監のリーダーシップのもと、市町村と密に連携し、府有施設をはじめ一時滞在施設のさらなる確保に向け、取り組んでいただきたいと思います。

2. 府域における SAF の普及拡大

次に、府域における SAF の普及拡大について伺います。

わが国は石油や天然ガスなど天然資源の少ない国です。そのため、様々な資源について地産地消や循環の仕組みが必要と考えます。燃料についても、原料になるものを生み出し、地域で消費することが大事です。そのモデルの一つが家庭や飲食店などから排出される廃食用油やバイオマス等を原料に航空燃料を製造する SAF です。昨今、テレビ CM でも放映されています。

昨年の9月議会におけるわが会派の代表質問で、廃食用油の回収について、府としても旗を振り、事業者とも連携しながら進めるべきではないかと質問し、吉村知事から、市町村への呼びかけや事業者とも連携した取組を進めていくとの答弁を頂きました。

そこで、府として廃食用油の回収を含めた SAF の推進に向けて、これまでどのように取り組み、また今後はどのように進めていくのか、環境農林水産部長に伺います。

【原田環境農林水産部長】

- SAF については、堺市において国内初となる国産 SAF 大規模生産施設が設置され、5月には関西国際空港において全国で初めて国産 SAF が民間航空機に供給されるなど、実用化が始まったところであり、今後の航空機の脱炭素化に向けては重要な取組と認識。

- とりわけ廃食用油を原料とした SAF の製造は府民や企業を巻き込んだものであることから脱炭素化に向けた行動変容につながるものであり、府として推進しているところ。
- 具体的な取組としては、SAF の製造業者などから構成される推進プロジェクトに府も参画し、関西国際空港での関連イベント等を通じて、連携して機運醸成に努めるとともに、廃食用油回収による CO2 削減量を可視化するなど、個人の行動変容を促すアプリ利用を促進している。
- また、今月には万博会場内のブルーオーシャンドームにおいて、民間事業者と連携して SAF の普及拡大に向けた取組などを周知した。
- さらに、府内市町村における廃食用油の回収を促すため、市町村との情報交換会の場における事例紹介に加え、今月、大阪で開催された第 1 回資源循環自治体フォーラム全国大会においても、廃食用油回収に関する府内自治体の先進事例の発信を行うなど、取組を進めており、廃食用油の回収は 9 月 1 日現在 26 市町村にまで拡大している。
- 引き続き、市町村に最新の事例を紹介するとともに、多くの府民が来場するイベントなどを通じて SAF を広く周知し、カーボンニュートラルの実現に向けて取り組んでまいります。

【要望】

東京都では、世界陸上を契機とした「家庭の油 回収キャンペーン」として廃食用油を都庁舎に回収所を、6 月に設置されていたとのことです。他府県の先進事例等も、取り込んで SAF の普及拡大をめざして欲しいと思います。

3. 大阪国際がんセンターにおける新たながん医療への貢献

次に、大阪国際がんセンターにおける新たながん医療への貢献について伺います。

府立病院機構では、近年の物価・人件費の高騰などの外部環境の影響を受け厳しい経営状況となる中、経営改善に向けた取組みを進めていると聞いております。これからも府民の生命と健康を支える公的医療機関としての役割を果たし続けられるよう、安定した経営の実現に努めていただきたいと思います。

こうした中、大阪国際がんセンターにおいては、がん医療の基幹病院として難治性、進行性及び希少がんをはじめとする総合的ながん医療の提供や、都道府県がん診療連携拠点病院として府域のがん医療の質の向上に取り組むとともに、特定機能病院として、高度先進医療の提供に加え新しい診断や治療方法の研究開発や人材育成にも取り組んでいると聞いています。

がん医療において全国有数の症例数のある大阪国際がんセンターには、次世代のがん医療を見据え、その症例数を強みとした臨床研究や治験などを推進することで、我が国における新たながん医療への貢献を進めていただくことが重要と考えますが、こうした臨床研究や治験を円滑に進めていくための取組について、健康医療部長に伺います。

【西野健康医療部長】

- 大阪国際がんセンターでは、西日本随一の症例数や希少がん・難治性がんへの対応といった専門性を活かし、早期がんの診断や新しい治療法、創薬の研究開発に貢献できるよう、臨床研究や治験、研究機関・企業との共同研究等に積極的に取り組んでいる。
- 同センターでは、これら研究や治験をより円滑に進めるため、臨床研究センターの所長に専従の医師を配置するとともに、治験コーディネーターの体制強化や治験審査の迅速化により、令和6年度の実施件数は226件と過去最高となっており、更なる体制強化に取り組んでいるところ。
- また、臨床情報を研究等に活かすための仕組みづくりとして、医薬基盤・健康・栄養研究所との共同研究により、生成AIを活用した対話型の疾患説明システムや、臨床情報をリアルタイムで自動収集するシステムの構築にも取り組んでいる。
- 府としても、来年度からの第5期中期目標においては、新たに府域の医療水準の向上や府政への貢献等の観点から新しい治療法の開発などを推進することとしており、がんセンターが患者に対し、新たながん医療をいち早く届けられるよう取り組んでいく。

【要望】

治験については、大学病院クラスの件数をこなしており、また、国立研究開発法人との共同研究を行っているということで、大変頼もしく思います。引き続き、このような取り組みを進めるとともに、日本学術振興会の科学研究費助成事業、いわゆる科研費や日本医療開発機構による研究開発予算AMEDなど採択の確度を更に上げていくことが、外部資金の調達、更なる優秀な人材、研究者ががんセンターへ集まることにつながると考えます。府としても、引き続き、必要な支援をお願いいたします。

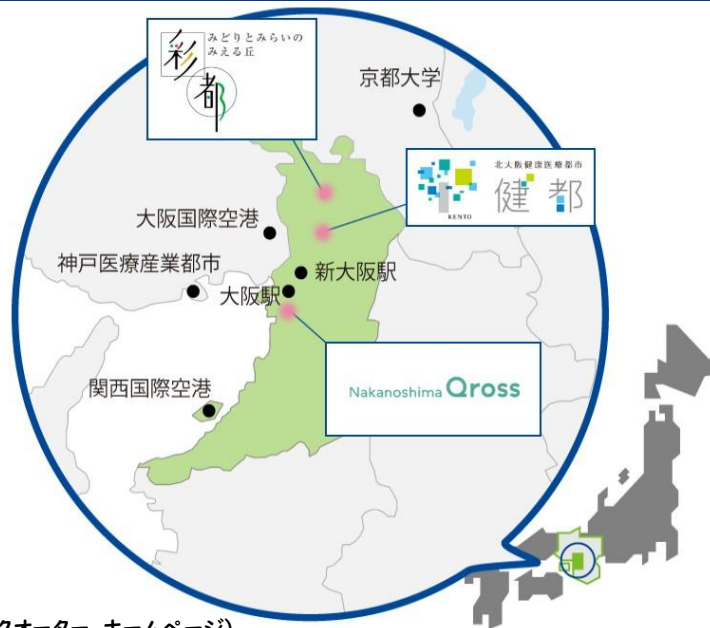
4. 医療ツーリズムの取組

次に、医療ツーリズムの取組について伺います。

先日、日本政府観光局（JNTO）から、2025年8月の訪日外国人旅行者数が300万人を超え、8月としては過去最高を記録したとの発表がありました。

大阪でも、万博開催の効果もあり、来阪外国人旅行者が増加しており、こちらも過去最高の数値を記録する状況となっています。近年の外国人観光客の目的としては、かつての「買い物」重視という傾向は薄れ、「食、歴史文化、体験」など幅広い分野に多様化しています。

府域に集積するライフサイエンス拠点等



(出典:大阪バイオ・ヘッドクォーター ホームページ)

1

そのような中、大阪では、「いのち」をテーマとした万博開催や、「中之島クロス」の開業、健都での健康・ヘルスケアの推進など、医療・健康分野に関する施策を積極的に進めており、外国人観光客からは海外との玄関口、大阪での医療に対するニーズも高まっているのではないかと思います。

今後は、観光と医療を組み合わせた取組み、いわゆる「医療ツーリズム」が、一つの大きなポテンシャルであり、外国人観光客から大阪の医療を受けたいとのニーズに応えることで、都市としての知名度もあがり、ひいては観光振興にもつながっていくのではないのでしょうか。

そこで、大阪府における医療ツーリズムに関する取組みの現状について、府民文化部長に伺います。

【松阪府民文化部長】

- 来阪外国人旅行者の多様なニーズに対して、医療分野を含む大阪の強みを活かした上質なサービスを提供することは、国際観光都市・大阪の実現のためにも重要。
- こうした考えのもと、外国人旅行者の医療ニーズに応えるために、大阪観光局と医療機関等で構成する「大阪・関西国際医療貢献推進委員会」において、地域医療の確保等にも配慮しながら、参画する医療機関と、受診を希望する旅行者をマッチングする仕組みを構築している。
- 昨年度、多言語対応のホームページを開設し、外国人旅行者が受診できる医療サービスや医療機関の情報提供のほか、海外からの相談に応じる対応を開始し、昨年度は23件の利用実績があったところ。

【要望】

医療ツーリズムについては、医療機関との調整など様々な課題もあるとは思いますが、特に、富裕層をターゲットとした観光振興の一助となるともいわれており、大阪の高水準な最先端医療を世界にアピールできる機会にもなり得ます。東京においては、こういった分野のスキームが進んでいると聞いており、大阪でも取り入れることができる内容はあると思います。

大阪の市場規模は、東京の1割に満たないそうです。しかしながら、大阪は万博を契機に、次世代に向けた先端技術やサービスを発信してきたアドバンテージがあります。医療ツーリズムは、大阪の持続的な成長と発展に寄与するものと確信しております。今年度以降は数値目標等を定め、また先進事例を研究するなど、取りこぼしがないよう取組を進めていただきたいと思います。

5. 府立高校の内装リニューアル

次に、府立高校の内装リニューアルについて伺います。

大阪府では、全庁方針である大阪府ファシリティマネジメント基本方針に基づき、建築後70年以上を改築の目標として、建物の長寿命化を図る改修を行っております。府立学校においても、この方針のもと「府立学校施設長寿命化整備方針」を策定し、学習環境の確保に努めています。

府の次期ファシリティマネジメント基本方針については、今年度内に取りまとめるべく検討が進められているそうですが、老朽化に加え狭隘化が著しい府立学校もあると聞いており、何とか少しでも早く改築して、学校で過ごす時間をより良いものにできないものか、と考えていました。

そのような中、先の我が会派の代表質問でも取り上げましたが、この8月に府教育庁において学校の魅力化や特色化を推進するため、「府立高校改革アクションプラン（案）」が公表され、11月には最終決定される予定と聞いています。その中で、府立高校共通の取組みとして、「施設や設備更新により、府立高校の魅力化を推進」する旨が示されているところです。

また、同アクションプラン（案）をテーマに開催された府の総合教育会議で、府立高校の一層の魅力化に向けて検討している取組みとして、教育環境の整備としての内装リニューアル、いわゆる美装化も挙げられました。この取組みについては、吉村知事から「教育施設整備に力を入れるべき。全校に広めていけば良いのではないか。」という旨の発言がありました。

府立学校内装リニューアル① (資料:教育庁提供)

(改修前)



(改修後)



2

美装化について、教育庁にこれまでの実施状況を確認したところ、昨年度に、三国丘高校、泉大津高校の2校、

府立学校内装リニューアル② (資料:教育庁提供)

(改修前)



(改修後)



3

今年度は夏休み期間を中心に3校でモデル実施され、生徒や教職員からも好評であると伺っています。

学校というのは、生徒たちが一日の大半を過ごすとても大切な場所でもあります。是非ともスピード感を持って、府立高校の美装化を進めていただきたいと思います。財政議論はあると思いますが、府教育庁としては、どのように進めて行くのか教育長に伺います。

【水野教育庁】

- 議員お示しのとおり、府立高校の内装リニューアル、いわゆる美装化については、昨年度に2校、この夏休みを中心に3校をモデル実施しており、現在も複数校で実施に向けた調整を行っているところ。
- この内装リニューアルについては、校舎を建替えるよりも低コストで、かつ、夏休みや冬休み等を活用して短期に工事を終えることができるため、在校生もリニューアル後の教室で授業を受けることができるというメリットがある。
- 生徒からは、「教室や廊下が綺麗になった。」、「勉強のモチベーションが上がった。」、「教室が明るくなったことで友達とも会話が弾むようになった。」などといった意見も聞いており、非常に喜ばれていることから、学校の魅力化に寄与できる取組みの一つであると認識している。
- 全校への広がりについては、スピード感を持ちつつ、計画的に整備が進められるよう関係部局と連携し検討してまいります。

【要望】

答弁にもありましたように、美装化については、府立高校の魅力化に向けても有効な手法の一つであると思います。現在、府立学校のトイレ洋式化が進んでおり、令和8年度末までに92%以上を達成することや、令和9年度以降、床の乾式化や照明のLED化等の検討・実施を進めると聞いています。今回のモデル校は府立高校でありましたが、府立学校には支援学校もあります。

先ほどの一般質問でも教育長から「支援学校の美装化について検討してまいります」とありました。まさに吉村知事、水野教育長がリーダーシップを発揮し、全ての府立学校に内装リニューアル、いわゆる美装化を広げていただきたいと思います。生徒たちが一日の大半を過ごす大切な場所である学校、府立学校での環境を充実させるためにも是非、お願いいたします。

6. 万博レガシーとしての府立高校での取組①

次の質問です。

大阪・関西万博での府立高校の取組① (資料:教育庁提供)



4

大阪・関西万博においては、シグネチャーパビリオンや大阪ヘルスケアパビリオン等で、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマにした催事に府立学校の高校生約2,000人が参加したとのことです。

大阪・関西万博での府立高校の取組② (資料:教育庁提供)



わたしの好きが世界を変える！
大阪・関西万博
シグネチャーパビリオン いのちの遊び場クラゲ館



高校生万博チーム
「いのち」をテーマにした展示
大阪・関西万博 ギャラリーEAST

5

未来社会を先取りした最新技術や多様な文化・価値観に触れることができる万博という国際的な舞台で府立学校の高校生にとって、貴重な経験となったことは、大変意義深いと考えています。

具体的な取組みとその評価について教育長に伺います。

【水野教育庁】

- 府教育庁では、大阪・関西万博を、未来社会の姿に触れ、地球規模の課題解決にむけて体験的に学ぶことができる貴重な機会と捉え、府立学校の生徒が探求心を持って参画できるさまざまな場を創出してきた。
- 府立学校生による催事では、子どもたち一人ひとりが自らの興味・関心をもとにアイデアを出し合い、着物の端材などを用いた新しい製品の開発や、国際紛争や飢餓への支援活動を行うNPOとワークショップを企画するなど、万博に参画する大学や企業等と連携しながら運営してきた。
- これらの活動や来場者との関わりを通じて、多様な文化・価値観に触れることができ、参加した生徒の創造性や協調性、発信力とともに当事者意識を育むなどの成果があったと考えている。

6. 万博レガシーとしての府立高校での取組②

未来社会を先取りした最新技術や多様な文化・価値観に触れるとともに、府立学校の生徒が相互に連携し合い創意工夫した取組みであったことは、教育的効果が非常に大きい活動であったと感じています。これからの未来社会を担う高校生にとって、万博での経験は非常に貴重なものであり、ウェルビーイングな「副首都・大阪」を実現させる人材育成に向けた有効な手段であったと考えています。

本年6月議会の一般質問において、本会派の河崎議員から要望したとおり、この学びを万博期間中だけのものとするのではなく、万博後にも引き続き府立学校の生徒がそれぞれの力を集結し合い、万博で出展された企業や大学等と連携するなど、産官学一体となった人材育成に取り組むべきであると考えますが如何でしょうか、教育長に伺います。

【水野教育長】

- 大阪・関西万博での学びを次代につなげていくことが重要であり、府立学校の生徒が融合し合い、産官学が連携してソフトレガシーとして継承していくことが、大阪の発展・成長につながると考えている。
- 府教育庁として、次代を担う高校生がこれから直面する様々な地球規模の課題を自分ごととして捉え、万博に関わった大学や企業等と連携しながら、未来に必要とされる商品やサービスの開発に取り組む探究プロジェクトを検討してまいる。
- 引き続き、生徒の当事者意識をさらに育む機会を創出し、大阪から世界に向けてイノベーションを起こす人材の育成に取り組んでまいる。

【要望】

教育長からご説明のあったように、万博で出展されたような先端技術を持つ企業や大学と連携し、地球規模の課題の解決に向けて取組む機会の創出は、「副首都・大阪」の実現に向けて重要であると認識しています。今後とも、大阪から世界に向けてイノベーションを起こす人材を育成していただきたいと思います。

7. 万博後のボランティアのあり方

最後に、万博後のボランティアのあり方について伺います。

大阪・関西万博会場でのボランティア活動



6

私自身、大阪・関西万博ボランティアに参加していますが、英語等の得意分野や各種資格を持った方など、優秀な方々がボランティアとして参加されています。こうした様々なスキルや熱意を持ったボランティアの方には、万博閉幕後においても各分野でボランティアとして活躍され、万博のレガシーになっていただくことを期待しています。

これによって、ボランティアの盛り上がりを一過性のものとして終わらせることなく、府内のボランティア活動を活発化させ、ボランティア文化を根付かせることができるものと認識しています。

そこで、万博閉幕後も万博ボランティアに参加された方が府内のイベント等で活躍できるよう取り組んでいくべきと考えますが、府民文化部長の所見を伺います。

【要望】

万博ボランティアについて提案した際、対応してくださった職員の方、少し否定的だったのですが、調整を重ねるにつれて前向きに検討する姿勢を示してくださり、感謝いたします。

万博ボランティアは、府外の方も多く登録されておりますが、登録人数は約3万人です。万博閉幕後、大阪マラソンをはじめ、2027年にはワールドマスターズゲームズ関西大会など、国際的イベントが続々と開催される予定です。

万博ボランティアの盛り上がりをも、一過性のものとして終わらせることなく、博覧会協会と連携して引き続き府内で活動を行っていただくための情報発信を効率的、効果的に行っていただきたいと思います。ボランティアに参加された方々のつながりを脈々と引き継がれることを願っております。

最後に、この万博を契機として大阪の持続的な成長と発展、府民の暮らしの向上につながるべく、また「副首都・大阪」の実現に向けて邁進することをお約束して、私の質問を終わらせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。

